

元国連難民高等弁務官で国際協力機構(JICA)理事長の緒方貞子氏が5月18日から3日間、四国を視察した。県内では、アフリカ・ザンビアなどで国際協力に取り組む吉野川市のNPO法人TICO、元青年海外協力隊員の雇用や外国人研修生の受け入れに熱心な健祥会グループを訪問した。四国、徳島の印象をまとめてもらった。



「海外・国内の双方の課題をつないでその解決に貢献できないか」。3月11日の東日本大震災以来この考え方はずっと私の頭から離れなかった。JICAは世界に90の拠

わが国の国際協力、途上国支援は、実は日本全

特別寄稿

5月に四国視察 緒方JICA理事長

# 途上国支援 一方通行でない

おがた・さだこ 1927年、東京都生まれ。聖心女子大、シヨージタウン大学院を経て、カリフォルニア大バークレー校で政治学博士号取得。上智大教授、国連難民高等弁務官などを経て、2003年からJICA理事長。

て考えることだった。

四国には、瀬戸大橋が開通したところに何度か家族旅行で訪れたことがあ

## 活動通し地域も豊かに

自然、優れた地場産業がある一方、少子高齢化や人口減で、農業後継者問題や労働人口の減少とい

県とアフリカ・アジアの現場で実践されつつあることに感銘を受けた。

東日本大震災では、日本の開発援助を受けて来た開発途上国からの支援の申し出が相次いだ。このことは、国際協力が日本から途上国への一方通行にはとどまらないことをあらためて思い起こさせてくれた。グローバル化が進む国際社会の中で、わが国と途上国との

一方、国内では、吉田修一の大半は青年海外協力隊出身者とのことだ。地

相互依存関係は、ますます深まっていくことなろう。わが国が世界と共存共栄を図るためには、国内各地域が有する地場産業などの豊かな技術